社会医療法人　昌林会　安来第一病院

れんけいだより

vol.11
2024.1

社会医療法人
昌林会

〒692-0011　安来市安来町899-1
新館地域連携室（一般科）：TEL　0854-22-3495（直通）　FAX　0854-22-3457
本館地域連携室（精神科）：TEL　0854-22-3411（代表）　FAX　0854-22-3454

誰もが処方可能な「言薬（ことぐすり）」にて切れ目のない連携を

院長　杉原勉

新年あけましておめでとうございます。旧年も当院との診療連携にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございました。

昨年は5月8日に新型コロナウイルスが5類になった影響もあり、医療圏域の会議カンファランス、各研究会・学会等での交流において、これまではオンラインに限定されていましたが、対面での開催が少しずつ復活してまいりました。昨今の医療制度においても患者様の医療の役割分担の上で医療連携は不可欠でありますので、各医療機関・施設との「顔の見える化」を促進したいと願うばかりであります。

緩和ケア医としてご高名なHITO病院の大坂巌先生が昨年「言薬（ことぐすり）」を提唱されました。どなたでも気軽に利用できるように商標登録もされました（登録第6689605号）。文字通り言葉は薬になるという意味です。患者様を他の医療機関に紹介するということは、場合によってそれまで構築されていた医療従事者との信頼や関係性がリセットされることもあり、そのことは患者様やご家族にとって期待がある反面、不安も少なからず生じています。転院や紹介の際に医療者側がその必要性を十分に説明をしたとしても、医療者側と患者様・ご家族との間において、その理解度については乖離があると指摘されています。文筆家で哲学者であり46歳の若さで癌にて亡くなった池田晶子氏は「死の床にある人、絶望の底にある人を救うことができるのは、医療ではなくて言葉である。宗教でもなくて、言葉である。」と明言しています。薬を処方できるのは医師、歯科医師、獣医師に限定されていますが、言葉で患者さんを癒すことはどの職種でも可能です。日々仕事量が増える医療現場ではございますが、少しでも皆様が発する言葉を言薬としての効力を待たせることで、より全人的な医療の提供や切れ目のない連携が築けるものと信じております。当院も言薬を介して各施設様との医療連携を推進してまいりたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

言薬（ことぐすり）
KOTOGUSURI MEISTER

鳥取大学医学部附属病院
浦上医師の認知症専門外来が始まりました

うらかみ　かつや
浦上克哉医師
鳥取大学医学部保健学科
認知症予防講座　教授

認知症は、早期診断、早期治療、早期対応が適切に行えれば、BPSDの出現を減らしたり、症状を軽減させることが可能です。進行予防の重要なポイントの一つとしてBPSDの予防が挙げられます。ご自宅や医療・介護の現場でお困りのことがありましたら、ぜひ専門外来をご活用ください。

予約
問合せ

診療日：第1・第3月曜日　9:00～12:00（予約制）

認知症疾患医療センター　☎0854-22-3432

第5回　安来圏域地域医療従事者スキルアップセミナー（2023.10.19開催）

テーマ
安来圏域の高齢者を支える

松江赤十字病院より講師の方においでいただき、テーマのもと3演題について講義いただきました。事前にこちらから沢山の希望を伝えていましたが、講師の方々には本当に丁寧に答えていただき、実りあるセミナーとなりました。ありがとうございました。

＜演題＞
1．「高齢者と心不全」
2．「高齢者の心臓リハビリテーション」
3．「誤嚥性肺炎を知るものは誤嚥性肺炎を制す」

＜講師＞
心不全療養指導士　篠原真帆様
リハビリテーション科　福山直樹様
呼吸器疾患看護認定看護師　野津栄子様

たくさんの事業所から、ケアマネさんや歯科衛生士さんなど多職種100名を超える方の参加がありました。

疾患管理に関して地域の事業所とも協力し、出来るだけ長く生活が続けられるようサポートしていきたいと思った。

どのテーマも興味深い内容で、資料も分かりやすく、明日からすぐに役立つ内容でした！

日々の口腔ケアの大切さを改めて認識しました。病棟でも今まで以上に誤嚥性肺炎の予防に努めたい。

松江赤十字病院主催
『地域医療従事者スキルアップセミナー』で演題発表してきました！（2023.10.28開催）

演題：脳卒中再発予防指導について
演者：一般科外来看護師　池田智史

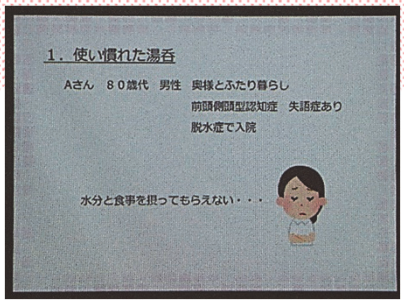
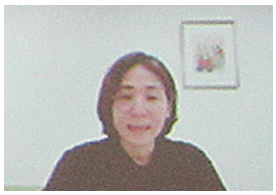
脳卒中再発予防については、鳥取大学医学部附属病院、山陰労災病院の脳卒中リハビリテーション看護認定看護師を中心に、”梨の和会“として活動しています。当院も参加し、研修や意見交換を行いながら知識、技術の向上を図っています。

私たち外来看護師は、脳卒中を発症し入院された患者様が退院を迎え、住み慣れた地域での生活を送る中で困られること、入院中から頑張っていること、守らないといけないこと等、患者様の思いを確認し、病棟の看護師から引き継いで支援しています。

今回、地域での生活を支えている医療従事者が集い、患者様への関わり方、多職種との連携などに着目した発表や講義を聞くことが出来ました。同じ目標に向かっている医療従事者の発表だからこそ、より身近に感じる内容であり、自身の行動や組織はどうなのか振り返る場となりました。

安来第一病院　認知症疾患医療センター主催
病院勤務の医療従事者・介護保険施設等勤務者向け認知症対応力向上研修会　（2023.12.16開催）

演題：まるっと1時間、事例紹介！
講師：認知症看護認定看護師　小川美佳

良い結果をもたらした対応例を20例、ご紹介しました。
・ご自宅から湯飲みを持ってきてもらったら水分が摂れるようになった。
・せん妄の原因は尿路感染症だった。
・食器をワンプレートに替えたらご自分で全部召し上がることができた。
・ご家族との電話で生まれたハッピーホルモン効果。　など
認知症をもつご本人に訊くことの大切さを、お伝えすることができたのであれば幸いです。　（小川）

今回は45名の方がご参加くださいました。画面越しではありますが、実際に使用しているワンプレートタイプの食器をご紹介できたり、患者様・利用者様の『見え方』に着目した質問を頂くなど、実り多い研修となりました。